

令和7年度 浜松市立浅間小学校 学校評価

		やさしさいっぱい	やる気いっぱい
自己評価	成果	○自分のよさに気が付いている子供の割合は昨年度同様に高い。友達同士でよさを見付け合うやさしさいっぱい活動や、行事やその他の活動の振り返りで自己を見つめる機会の設定が効果となって表れていることがうかがえる。 ○友達のよさを見付けることができている子供の割合も高い。学校教育目標「一人一人のよさが輝く学校」が子供たちの中に定着していることがうかがえる。	○自分の考えを相手に分かりやすく伝えていると感じている子供が昨年度より大幅に増えた。個別最適な学びと協働的な学びを適切に取り入れた単元計画による授業改善により、子供たちが主体性をもって学習することができるようになったことがうかがえる。 ○昨年度同様に、友達の考えのよさを見付ながら友達の話を聞いている子供の割合が高い。協働的な学びによって主体性をもって学習することができるようになってきている。
	課題	●自分のよさに気付いていなかったり自分を大切に生活していなかったりする子供が１０％以上いる。自己肯定感を高め、自分のを大切にさせていく必要性を感じる。 ●昨年度同様、他の人のよさを見付けている児童の割合は高いが、よさを見付けられていない子供や他の人を大切にする意識の低い子供も少なくない。	●主体性をもって学習に取り組んでいると感じている子供は相当数いるのに対し、同じように感じている保護者の割合は低く、双方の意識に開きがある。家庭学習の取り組みに課題があることがうかがえる。 ●学習内容の理解への意識については、子供と大人に大きな開きがある。主体性をもって学習することができるようになってきているものの、更なる授業改善や家庭学習の充実による学力の定着が課題である。
学校関係者評価		・人のよさを伝え合う活動は、自分では気付けなかったよいところに気付くことができ、自己肯定感が上がるので続けたい。 ・様々な活動の振り返りの機会を作ること、相互理解を深めることができている。	・学習への取り組みについて、子供と保護者のとらえ方に差があり、子供から保護者にうまく伝わっていないため、子供が保護者に伝える以外の方法を考えていくとよい。 ・共働き家庭が多いため、家で一人で学習する子供が増えている。効果的な家庭学習について考えていく必要がある。
改善案		☆様々な活動の中で、自分や友達のよさに気付くような振り返りの場を設定し、自己肯定感を高めていくとともに相互理解を深めていく。 ☆来年度も継続してやさしさいっぱい活動や交流活動を充実させ、互いのよさを認め合う場をたくさん設定する。やさしさいっぱい活動での認め合いを日常生活に生かす手立てについて全職員で研修に取り組む。	☆子供が主体的に学びたいと思えるような授業づくりをする。個別最適な学びの中でそれぞれの方法で学力を伸ばしたり、協働的な学びで理解を深めたり広げたりすることができるような授業改善の研修に引き続き取り組み、子供が主体的に学習に取り組めるようにしていく。 ☆子供の「やりたい、知りたい」を引き出し、自分事として学びに向かう子の育成のための授業改善に努める。
		元気いっぱい	いじめ防止基本方針に基づく取組
自己評価	成果	○主体性をもって運動や外遊びをしている子供の割合が高い。体育科学習で取り組んだ運動に自主的に取り組んだり、休み時間に元気に外遊びをしたりしている子供が多い。 ○自分の体や健康、安全な生活に関する意識を高くもっている子供が相当数いる。主体性をもって健康保持や自助の意識の向上が見られ、日頃の保健指導や安全指導が生かされていることがうかがえる。	○学校が楽しいと感じている子供・保護者の割合が高い。 ○「いじめアンケート」の結果や子供や保護者からの訴えについて、全職員で共通理解を図り、組織的に早期対応に努めた。
	課題	●やるべきことに粘り強く最後まで取り組んでいると感じていない保護者の割合が高い。また、子供たち自身も課題と感じている様子がうかがえ、主体性をもってやるべきことに取り組む姿勢を育てる必要がある。 ●自分の体や健康、安全に関する意識が低いと感じている保護者の割合が大きい。子供自身の危機意識の低さがあったり、家庭生活と学校生活の様子に差があったりするためと思われる。	●学校が楽しいと感じていない子供が昨年度より増え、割合が１０％を超えている。それぞれの子供が抱えている不安や悩みに寄り添い、早急に対応していく必要がある。
学校関係者評価		・大人がここまで頑張れと具体的な着地点を声掛けすると粘り強く頑張れる子供を育てることができると思う。 ・やさしさいっぱいやる気いっぱい元気いっぱいの子がたくさんいる。反面、これらの表れが見られない子をどう支援していくかを考えていきたい。 ・苦手な食べ物にもチャレンジしていくと我慢強さにもつながるため、食育を引き続き大切にしていきたい。	・様々な種類のいじめに対する対策について情報収集し、学校内で十分共有してほしい。 ・いじめの早期発見につながるため、子供との会話の中で教師がアンテナを張ることが大切である。
改善案		☆主体的に粘り強さをもって取り組む体づくり、心づくりを目指した体育科授業や行事の充実にも努める。 ☆心も体も元気でい続けることを目指した保健指導や食育指導に取り組む。 ☆「自分の体や命は自分で守る」を目指した安全指導・防災指導に取り組み、自助意識の向上を図る。	☆スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、少年サポートセンター、社会福祉課等、関係諸機関との連携を密にしていく。また、民生委員やつばめ応援団等、地域の様々な方々と協働して子供たちを見守っていく。 ☆「いじめ防止基本方針」を校内で常に意識して組織的に指導に当たる。 ☆教科担任制を引き続き取り入れ、複数体制で子供を見守り、不安や不満を抱えた子供の早期発見に努める。また、子供たちの創意工夫を取り入れた活動の設定や学習内容定着のための「分かる」授業の研修に取り組み、学校が楽しいと感じる子供を増やす。